

ミハル・カニユカ ピアノ・トリオ・プロジェクト



ピアノ:伊藤 恵
(東京藝術大学教授)



ヴァイオリン:漆原朝子
(東京藝術大学教授)



チェロ:ミハル・カニユカ
(ブラハの春国際音楽コンクール会長
ブラハの春国際音楽祭芸術委員)

2024年11月公演プログラム

◆ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 op.97「大公」

◆チャイコフスキー:ピアノ三重奏曲 イ短調 op.50「偉大な芸術家の思い出に」

制作協力:KAJIMOTO

伊藤 恵(ピアノ)

幼少より有賀和子氏に師事。桐朋学園高校を卒業後、ザルツブルク・モーツァルト音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグラー氏に師事。エビナール国際コンクール、J.S.バッハ国際音楽コンクール、ロン＝ティボー国際音楽コンクールと数々のコンクールに入賞。1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ部門で日本人として初の優勝。サヴァリッシュ指揮バイエルン州立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響(現hr響)、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本ではN響をはじめとする各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍を続けている。CDの代表作は、シューマン・ピアノ曲全曲録音「シューマニアナ1～13」。

2007年秋には全集完成記念コンサートを行った。さらに、2008年にリリースを開始した「シューベルト ピアノ作品集1～6」は1作ごとに注目を集め、第6集は

2015年度レコード・アカデミー賞、第70回文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。2018年にリリースされた「ベートーヴェンピアノ作品集1」、最新盤の「ベートーヴェンピアノ作品集2」(フォンテック)は、いずれもレコード芸術特選盤を獲得。また、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、軽井沢音楽祭、リゾナーレ音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンなどに参加、武生国際音楽祭ではコンサートプロデューサーを務める。1999年から2006年までの8年シリーズではシューマンを、2008年から2015年4月までの新たな8年シリーズではシューベルトを中心としたリサイタルを開催し好評を博した。2018年からはベートーヴェンを中心としたシリーズを開始。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市文化賞奨励賞受賞。2018年ジュネーヴ国際音楽コンクールの審査員も務めた。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。

漆原朝子(ヴァイオリン)

東京藝術大学附属高等学校在学中に日本国際音楽コンクールで最年少優勝。ジュリアード音楽院卒業。1988年NHK交響楽団定期公演でデビュー、ニューヨークでのリサイタル・デビューも絶賛を博す。マールボロ音楽祭でルドルフ・ゼルキン、リチャード・グード等と共演、ザルツブルク音楽祭などにも登場。2003年以後シューマンとブラームスのヴァイオリンソナタ全曲ライブCDを相次いでリリースして極めて高い評価を得る。

2006年にはシューマン没後150周年を記念してヴァイオリンソナタ全曲演奏に加えて、大阪センチュリー交響楽団(現 日本センチュリー交響楽団) シューマン:交響曲全曲ツィクルスにおいて、遺作のヴァイオリン協奏曲を演奏して注目と賞賛を得る。

2008-09年にはベリー・スナイダー、ロータス・カルテットと共に『シューベルト:ヴァイオリン作品全集』をレコーディング。スナイダーとは長年にわたってデュオを組んでおり、2009年にオール・シューベルト、2010年には生誕200周年記念シューマン・プログラムなどテーマ性をもったリサイタルツアーをその後も行っている。また、2012-13年には東京と大阪でベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ全曲ツィクルス(ピアノ=鈴木慎崇)を行い、聴衆にひととき深い感銘を与えた。英国人指揮者 ジョセフ・ウォルフとはライフワークである エルガー:ヴァイオリン協奏曲を度々共演しており、2017年兵庫芸術文化センター管定期演奏会(三公演)との共演はライブレコーディングCDとしてリリースされて話題となり各方面より好評を得ている。平成26年度 文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。現在、東京藝術大学教授、大阪音楽大学特任教授。

ミハル・カニユカ(チェロ)

1960年ブラハ生まれ。ミルコ・シュカンパの指導により7歳でチェロを始め、ブラハ音楽院でヴィクトル・モウチュカ(ヴァラ弦楽四重奏団)の下で研鑽を積む。ヨセフ・ブッフロ(スーク・トリオ)の下で学んだブラハ芸術アカデミー時代の1983・84年には、グレゴール・ピアティゴルスキー・セミナーに参加し、アンドレ・ナヴァラ、モーリス・ジャンドロン、ポール・トルトゥリエらの指導を受けた。

1980年ブラハの春国際音楽コンクールで名誉賞受賞。翌年、チェコスロヴァキア(当時)国内コンクールでグランプリを獲得。1982年チャイコフスキー・コンクール、1983年ブラハの春国際音楽コンクール(第1位)などで上位入賞を果たす。1986年にはミュンヘン国際音楽コンクールの勝者となった(第1位なしの第2位)。

カニユカは、チェコ・フィル、ブラハ放送響、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、ローザンヌ室内管、ブラハ室内管、ブラハ室内フィルなどのトップ・オーケストラとも共演を重ね、リサイタルも世界各国で開いてきた。また、ブルノ・フィルでは1995年以来定期的にソリストとして客演を続け、ブラハ

放送響では2003年から指定ソリストとして活躍している。その演奏は放送で度々紹介されていることはもちろん、CDも多数リリースしており、いずれのレコーディングも数々の受賞を得るなど極めて高く評価されている。室内楽分野でもその活動は精力的で、1976年にマルティヌー・カルテットを結成。1986年～2022年までブラジャーク・クワルテットのメンバーとして、世界中の主要なコンサートホールに立ち、数々のCDを録音している。2017年からはウィハン・カルテットのメンバー、さらに2019年からはターリヒ・カルテットのチェリストを務めている。使用楽器はフランスの名工クリスチャン・バヨンによる2006年製で、同じくフランスのニコル・デュシュリュエ2000年製の弓を使用している。ミハル・カニユカは現在、ブラハの春国際音楽コンクール会長、ブラハの春国際音楽祭芸術委員、ボフスラフ・マルティヌー財団理事などの要職を務めており、まさにチェコを代表する音楽家として揺るぎない評価と地位を獲得している。

お問い合わせ/コジマ・コンサートマネジメント

TEL.03-5379-3733/090-3727-6539

URL▶<http://www.kojimacm.com> E-mail▶kojimacm@ops.dti.ne.jp